





矢戸の蛇神楽



指定区分	重要無形民俗文化財
読みかた	やとのへびかぐら
所在地	新見市哲多町矢戸
指定年月日	令和5年3月14日
解説	江戸時代の18世紀半ばから新見市哲多町矢戸地区に伝わる伝統的な祭礼行事。地区内にある宮の峠(みやのたわ)、只野(ただの)、町(まち)の3集落が交代で当番組を努め、7年ごとに行われている式年大神楽を中心に構成される。藁で蛇を製作し、藁蛇に荒神を憑依させる行為、さらには託宣を経て、藁蛇と田畑を駆け巡るような行事も残されている。また、式年大神楽の3年後には「御戸開き神楽」が奉納され、一連の行事が完了となる。これらの行事がほぼ全て現在まで傳承されているものは他になく、大変貴重である。
アクセス方法	・中国自動車道新見インターチェンジから車で25分
公開状況	公開 ※7年に1度、11月末～12月初頭頃
設備	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;"> 駐車場  </div> <div style="text-align: center;"> トイレ  </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 5px;"> <div style="text-align: center;"> 障害者用駐車場  </div> <div style="text-align: center;"> 障害者用トイレ  </div> </div>
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	重要無形民俗文化財
ぶんかざいめい (文化財名)	矢戸の蛇神楽
よみかた	やとのへびかぐら
しょざいち (所在地)	新見市哲多町矢戸
していたひ (指定した日)	令和5年3月14日
せつめい	江戸時代の18世紀半ばから新見市矢戸地区に伝わっています。矢戸地区内の3集落が交代で当番を務(つと)め、7年ごとに行われる式年大神楽(しきねんだいかぐら)を中心とする祭礼行事です。また、藁(わら)で蛇を作り、荒神をのりうつらせて地区内を駆け巡るような行事も行います。さらに3年後には御戸(みと)開き神楽を奉納し、一連の行事が終わります。これらの行事がほぼ全て現在まで伝えられているものは他になく、大変貴重です。